

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成20年5月1日(2008.5.1)

【公開番号】特開2006-292083(P2006-292083A)

【公開日】平成18年10月26日(2006.10.26)

【年通号数】公開・登録公報2006-042

【出願番号】特願2005-114098(P2005-114098)

【国際特許分類】

F 1 6 C	33/78	(2006.01)
C 0 8 K	3/34	(2006.01)
C 0 8 L	1/02	(2006.01)
C 0 8 L	9/02	(2006.01)
C 0 9 K	3/10	(2006.01)
C 1 0 M	135/18	(2006.01)
C 1 0 M	169/00	(2006.01)
F 1 6 J	15/32	(2006.01)
C 1 0 N	10/12	(2006.01)
C 1 0 N	40/02	(2006.01)
C 1 0 N	40/34	(2006.01)
C 1 0 N	50/10	(2006.01)

【F I】

F 1 6 C	33/78		D
C 0 8 K	3/34		
C 0 8 L	1/02		
C 0 8 L	9/02		
C 0 9 K	3/10		Z
C 1 0 M	135/18		
C 1 0 M	169/00		
F 1 6 J	15/32	3 1 1 A	
F 1 6 J	15/32	3 1 1 Z	
C 1 0 N	10:12		
C 1 0 N	40:02		
C 1 0 N	40:34		
C 1 0 N	50:10		

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月17日(2008.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

材料硬度(デュロメータA)が60~80で、摺動表面の粗さとして中心線平均粗さRaが0.5~0.65 μ m、10点平均粗さRzが1.5~2.5 μ mの特性を有するニトリルゴム製シールリップを備え、硫化ジアルキルジチオカルバミン酸モリブデンを0.5重量%以上含有するグリースを用いたグリース軸受に使用されるグリースシール。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

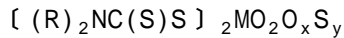
【補正対象項目名】 0 0 0 6

【補正方法】 変更

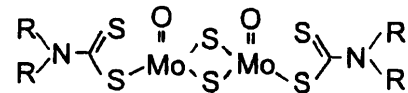
【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

このような黄色固着物の発生は、単調な一方向回転摺動の場合にはみられず、正逆回転および停止がくり返される場合のグリースの場合にのみみられる。また、MoDTCを含まない系でも発生はみられない。ここで、MoDTCは、一般式



で表わされ、具体的には次のような化合物が示される。



【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

かかる本発明の目的は、材料硬度(デュロメータA)が60～80で、摺動表面の粗さとして中心線平均粗さRaが0.5～0.65 μm、10点平均粗さRzが1.5～2.5 μmの特性を有するニトリルゴム製シールリップを備え、硫化ジアルキルジチオカルバミン酸モリブデンを0.5重量%以上含有するグリースを用いたグリース軸受に使用されるグリースシールによって達成される。このグリースシールは、正逆回転および停止がくり返される回転摺動用軸受、例えば産業用ロボットの回転摺動用軸受等として用いられる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

ニトリルゴム製シールリップは、材料硬度(デュロメータA)が60～80、摺動表面の粗さとして中心線平均粗さRaが0.5～0.65 μm、10点平均粗さRzが1.5～2.5 μmの特性を有するものが用いられる。硬度がこの範囲を外れると、リップシールの成形性が問題となり、表面粗さはRa、Rzが共にこれ以下の値であると、回転、摺動シールとして必要なシール性が得られず、一方これ以上の値であると、黄色固着物の析出が発生するようになる。